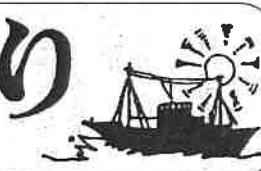


福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行
(財) 第五福竜丸平和協会
〒136-0081 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494

「私と第五福竜丸」

長沼 士朗

三月一八日の夜、川崎市の宮前市民文化会議では、「元第五福竜丸の乗組員、大石又七さんを招き、「マグロ塚への想い」と題して話を伺った。

宮前市民文化会議とは、川崎市宮前区に住む学者、教員、会社員などの主にOB達が、地域の文化活動に取り組もうと気楽に作った集まりであり、年六回ほど講師を招いて文化講座を開くとともに、時には映画会などの催しも行っている。私は、現在、この組織の運営委員をしているが、今年は、海底に沈んだ第五福竜丸のエンジンが、二年ぶりに展示館に戻ってきた記念すべき年でもあり、三月の文化講座として、大石さんに講演をお願いしたのである。

この日の市民館の会議室に集まつた人は、およそ二〇人ほどであったが、若い人はもちろん、年配者も、第五福竜丸の事件について詳しく記憶している人はほとんど居なかつた。それだけに、四六年前の被爆体験を、まるで昨日の出来事のように語る大石さんの気迫に満ちた話に、全員が熱心に耳をかたむけた。

中でも私は、ビキニ事件直後日本政府が、原子力をエネルギーとして使う技術の提供をアメリカから受けるため、第五福竜丸の乗組員からの賠償問題をあい

まいにし、見舞金で政治決着がはかられたという話が、特に印象に残つた。この話は、現在私達が原子力の平和利用によって受けている恩恵が、スタートのところで必ずしも人命を大切にすることを物語つてゐる。

去年の九月、茨城県東海村の核燃料施設で、ウランの核分裂による臨界事故が発生したが、原子力による恩恵は、これからも、いつそれが私達の生命を脅かす存在に変わるかも知れないといつも肝に銘じていた方がよさそうである。

私は、NHKで三〇年間ほどディレクターとしてテレビ番組を作る仕事をしたが、第五福竜丸との最初の出会いは、昭和四四年三月、牛輩の工藤敏樹さんが作った「廃船」というテレビドキュメンタリーであった。

この番組は、東京・夢の島にゴミとして捨てられた第五福竜丸の流転の航跡を克明に記録し、非人道的な核兵器の存在を厳しく糾弾した、記念碑的な作品であつた。平成三年七月には、この工藤さんの協力を得て、大石さんが「死の灰を背負つて」という本を出版した。このとき私は、朝のニュース番組を担当しており、大石さんをスタジオに招いて、自分の半

生を本にしたかった心境を語つてもらつた。この半年後に工藤さんが、病氣でこの世を去る。

その後私は、定年でNHKを退職し現在は関連会社で働いているが、去年の夏、仲間とやつている同人誌に、「工藤さんのことや大石さんのことを書きたいと思い、久しぶりに大石さんと連絡をとつた。大石さんは今、核の被害が再び起きないことを願つて、原爆マグロが埋められた築地の魚市場の一角落に「マグロ塚」を建てる運動に取り組んでいた。そのため、平成九年から全国の子ども達に「○円募金を呼びかけ、平成一年には、伊予の青石に「マグロ塚」と文字を刻んだ石碑も完成した。

しかし築地の魚市場は現在再整備が検討されており、現在この碑を築地に配置する見通しはまったく立っていない。今年に入つて、暫定的に第五福竜丸展示館の横に展示することが東京都との話し合いでまとまり、この四月一四日に大石さんたちの手で設置作業が行われた。私は、科学者でも平和運動家でもないが、これからも、第五福竜丸や「マグロ塚」のことを通して核の問題に関心を持つていきたいと思っている。

風化せず世紀を越えよ原爆忌 テレビ番組のタイトルから刺激をうけて、最近作った一句である。

(元NHK勤務)



展示館東入口横に設置された「マグロ塚」

「マグロ塚」設置される
大石又七さんが築地にと願つて
きた「マグロ塚」が四月十四日、
第五福竜丸展示館横に設置されま
した。大石さんははじめ「作る会」
の人々の手で心こめて設置された
塚は船とともに、死の灰の恐ろし
さを静かに訴えづけます。

山口勇子さんを偲ぶ会

一月三日には三歳で亡くな
れた山口勇子さんを「偲ぶ会」
が、三月二〇日日本青年館で開
かれ、二百人余りの人参加し
ました。

山口さんは広島で被爆、原爆
で両親と夫の両親を失いま
た。広島子どもを守る会の結成
に参加以来、原爆孤児の精神養

育会議議員のお一人として長くご協
力をいただいた伊東壯さん(日本原水
爆被爆者団体協議会代表委員長・山梨大
学創学長名誉教授)が三月三日亡くな
られた。享年七十歳でした。三月六
日山梨大学、日本被爆協などの発起人
による「故伊東壯先生感謝の集い」が
甲府市で行われました。

伊東さんは中学三年のとき、爆心から
五キロ離れた東洋工業に学徒動員中
被爆しました。救援活動や肉親を捜す
など、市内を歩き数えきれないほどの
被爆者の死を目撃しました。

一橋大学在学中から、原水爆禁止
運動に参加、国立市の被爆者の会の
結成、一九五八年の東友会(東京の
被爆者団体)の結成にあたりまし
た。七〇年日本被爆者団体事務局長、八
一年から日本被爆者団体代表委員でし
た。早くから地域での被爆者生活調
査をすすめ、被爆者の要求を理論化
する基礎をつくりました。六六年に

子運動などに奔走、その後児童文
学に携わり、「つるのとぶ日」「おこりじぞう」「荒れ地野ばら」などの文学作品を残しま
た。また早くから原水爆禁止運動
に参加、日本原水協代表理事など
をつとめました。

第五福竜丸保存運動にも当初か
ら協力され、一九七三年には
『おーい、まっしろぶね』を発
表されました。

伊東壯さんの生と 仕事の重みを思う

山村 茂雄

協会議議員のお一人として長くご協
力をいたいた伊東壯さん(日本原水
爆被爆者団体協議会代表委員長・山梨大
学創学長名誉教授)が三月三日亡くな
られた。享年七十歳でした。三月六
日山梨大学、日本被爆協などの発起人
による「故伊東壯先生感謝の集い」が
甲府市で行われました。

伊東さんは中学三年のとき、爆心から
五キロ離れた東洋工業に学徒動員中
被爆しました。救援活動や肉親を捜す
など、市内を歩き数えきれないほどの
被爆者の死を目撃しました。

一橋大学在学中から、原水爆禁止
運動に参加、国立市の被爆者の会の
結成、一九五八年の東友会(東京の
被爆者団体)の結成にあたりまし
た。七〇年日本被爆者団体事務局長、八
一年から日本被爆者団体代表委員でし
た。早くから地域での被爆者生活調
査をすすめ、被爆者の要求を理論化
する基礎をつくりました。六六年に

は「原爆被害の特質と被爆者援護法
の要求」の策定、七三年の「被爆者
援護法のための要求骨子」では、被
害者の補償、いのち・くらし・こ
ころの保障、核兵器のない平和の保
護をいたいた。伊東壯さん(日本原水
爆被爆者団体協議会代表委員長・山梨大
学創学長名誉教授)が三月三日亡くな
られた。享年七十歳でした。三月六
日山梨大学、日本被爆協などの発起人
による「故伊東壯先生感謝の集い」が
甲府市で行われました。

伊東さんは中学三年のとき、爆心から
五キロ離れた東洋工業に学徒動員中
被爆しました。救援活動や肉親を捜す
など、市内を歩き数えきれないほどの
被爆者の死を目撃しました。

一橋大学在学中から、原水爆禁止
運動に参加、国立市の被爆者の会の
結成、一九五八年の東友会(東京の
被爆者団体)の結成にあたりまし
た。七〇年日本被爆者団体事務局長、八
一年から日本被爆者団体代表委員でし
た。早くから地域での被爆者生活調
査をすすめ、被爆者の要求を理論化
する基礎をつくりました。六六年に

伊東さんは中学三年のとき、爆心から
五キロ離れた東洋工業に学徒動員中
被爆しました。救援活動や肉親を捜す
など、市内を歩き数えきれないほどの
被爆者の死を目撃しました。

一橋大学在学中から、原水爆禁止
運動に参加、国立市の被爆者の会の
結成、一九五八年の東友会(東京の
被爆者団体)の結成にあたりまし
た。七〇年日本被爆者団体事務局長、八
一年から日本被爆者団体代表委員でし
た。早くから地域での被爆者生活調
査をすすめ、被爆者の要求を理論化
する基礎をつくりました。六六年に

は「原爆被害の特質と被爆者援護法
の要求」の策定、七三年の「被爆者
援護法のための要求骨子」では、被
害者の補償、いのち・くらし・こ
ころの保障、核兵器のない平和の保
護をいたいた。伊東壯さん(日本原水
爆被爆者団体協議会代表委員長・山梨大
学創学長名誉教授)が三月三日亡くな
られた。享年七十歳でした。三月六
日山梨大学、日本被爆協などの発起人
による「故伊東壯先生感謝の集い」が
甲府市で行われました。

伊東壯さんは中学三年のとき、爆心から
五キロ離れた東洋工業に学徒動員中
被爆しました。救援活動や肉親を捜す
など、市内を歩き数えきれないほどの
被爆者の死を目撃しました。

一橋大学在学中から、原水爆禁止
運動に参加、国立市の被爆者の会の
結成、一九五八年の東友会(東京の
被爆者団体)の結成にあたりまし
た。七〇年日本被爆者団体事務局長、八
一年から日本被爆者団体代表委員でし
た。早くから地域での被爆者生活調
査をすすめ、被爆者の要求を理論化
する基礎をつくりました。六六年に

は「原爆被害の特質と被爆者援護法
の要求」の策定、七三年の「被爆者
援護法のための要求骨子」では、被
害者の補償、いのち・くらし・こ
ころの保障、核兵器のない平和の保
護をいたいた。伊東壯さん(日本原水
爆被爆者団体協議会代表委員長・山梨大
学創学長名誉教授)が三月三日亡くな
られた。享年七十歳でした。三月六
日山梨大学、日本被爆協などの発起人
による「故伊東壯先生感謝の集い」が
甲府市で行われました。

伊東壯さんは中学三年のとき、爆心から
五キロ離れた東洋工業に学徒動員中
被爆しました。救援活動や肉親を捜す
など、市内を歩き数えきれないほどの
被爆者の死を目撃しました。

一橋大学在学中から、原水爆禁止
運動に参加、国立市の被爆者の会の
結成、一九五八年の東友会(東京の
被爆者団体)の結成にあたりまし
た。七〇年日本被爆者団体事務局長、八
一年から日本被爆者団体代表委員でし
た。早くから地域での被爆者生活調
査をすすめ、被爆者の要求を理論化
する基礎をつくりました。六六年に

は「原爆被害の特質と被爆者援護法
の要求」の策定、七三年の「被爆者
援護法のための要求骨子」では、被
害者の補償、いのち・くらし・こ
ころの保障、核兵器のない平和の保
護をいたいた。伊東壯さん(日本原水
爆被爆者団体協議会代表委員長・山梨大
学創学長名誉教授)が三月三日亡くな
られた。享年七十歳でした。三月六
日山梨大学、日本被爆協などの発起人
による「故伊東壯先生感謝の集い」が
甲府市で行われました。

伊東壯さんは中学三年のとき、爆心から
五キロ離れた東洋工業に学徒動員中
被爆しました。救援活動や肉親を捜す
など、市内を歩き数えきれないほどの
被爆者の死を目撃しました。

一橋大学在学中から、原水爆禁止
運動に参加、国立市の被爆者の会の
結成、一九五八年の東友会(東京の
被爆者団体)の結成にあたりまし
た。七〇年日本被爆者団体事務局長、八
一年から日本被爆者団体代表委員でし
た。早くから地域での被爆者生活調
査をすすめ、被爆者の要求を理論化
する基礎をつくりました。六六年に

は「原爆被害の特質と被爆者援護法
の要求」の策定、七三年の「被爆者
援護法のための要求骨子」では、被
害者の補償、いのち・くらし・こ
ころの保障、核兵器のない平和の保
護をいたいた。伊東壯さん(日本原水
爆被爆者団体協議会代表委員長・山梨大
学創学長名誉教授)が三月三日亡くな
られた。享年七十歳でした。三月六
日山梨大学、日本被爆協などの発起人
による「故伊東壯先生感謝の集い」が
甲府市で行われました。

伊東壯さんは中学三年のとき、爆心から
五キロ離れた東洋工業に学徒動員中
被爆しました。救援活動や肉親を捜す
など、市内を歩き数えきれないほどの
被爆者の死を目撃しました。

一橋大学在学中から、原水爆禁止
運動に参加、国立市の被爆者の会の
結成、一九五八年の東友会(東京の
被爆者団体)の結成にあたりまし
た。七〇年日本被爆者団体事務局長、八
一年から日本被爆者団体代表委員でし
た。早くから地域での被爆者生活調
査をすすめ、被爆者の要求を理論化
する基礎をつくりました。六六年に

は「原爆被害の特質と被爆者援護法
の要求」の策定、七三年の「被爆者
援護法のための要求骨子」では、被
害者の補償、いのち・くらし・こ
ころの保障、核兵器のない平和の保
護をいたいた。伊東壯さん(日本原水
爆被爆者団体協議会代表委員長・山梨大
学創学長名誉教授)が三月三日亡くな
られた。享年七十歳でした。三月六
日山梨大学、日本被爆協などの発起人
による「故伊東壯先生感謝の集い」が
甲府市で行われました。

伊東壯さんは中学三年のとき、爆心から
五キロ離れた東洋工業に学徒動員中
被爆しました。救援活動や肉親を捜す
など、市内を歩き数えきれないほどの
被爆者の死を目撃しました。

一橋大学在学中から、原水爆禁止
運動に参加、国立市の被爆者の会の
結成、一九五八年の東友会(東京の
被爆者団体)の結成にあたりまし
た。七〇年日本被爆者団体事務局長、八
一年から日本被爆者団体代表委員でし
た。早くから地域での被爆者生活調
査をすすめ、被爆者の要求を理論化
する基礎をつくりました。六六年に

は「原爆被害の特質と被爆者援護法
の要求」の策定、七三年の「被爆者
援護法のための要求骨子」では、被
害者の補償、いのち・くらし・こ
ころの保障、核兵器のない平和の保
護をいたいた。伊東壯さん(日本原水
爆被爆者団体協議会代表委員長・山梨大
学創学長名誉教授)が三月三日亡くな
られた。享年七十歳でした。三月六
日山梨大学、日本被爆協などの発起人
による「故伊東壯先生感謝の集い」が
甲府市で行われました。

伊東壯さんは中学三年のとき、爆心から
五キロ離れた東洋工業に学徒動員中
被爆しました。救援活動や肉親を捜す
など、市内を歩き数えきれないほどの
被爆者の死を目撃しました。

一橋大学在学中から、原水爆禁止
運動に参加、国立市の被爆者の会の
結成、一九五八年の東友会(東京の
被爆者団体)の結成にあたりまし
た。七〇年日本被爆者団体事務局長、八
一年から日本被爆者団体代表委員でし
た。早くから地域での被爆者生活調
査をすすめ、被爆者の要求を理論化
する基礎をつくりました。六六年に

は「原爆被害の特質と被爆者援護法
の要求」の策定、七三年の「被爆者
援護法のための要求骨子」では、被
害者の補償、いのち・くらし・こ
ころの保障、核兵器のない平和の保
護をいたいた。伊東壯さん(日本原水
爆被爆者団体協議会代表委員長・山梨大
学創学長名誉教授)が三月三日亡くな
られた。享年七十歳でした。三月六
日山梨大学、日本被爆協などの発起人
による「故伊東壯先生感謝の集い」が
甲府市で行われました。

伊東壯さんは中学三年のとき、爆心から
五キロ離れた東洋工業に学徒動員中
被爆しました。救援活動や肉親を捜す
など、市内を歩き数えきれないほどの
被爆者の死を目撃しました。

一橋大学在学中から、原水爆禁止
運動に参加、国立市の被爆者の会の
結成、一九五八年の東友会(東京の
被爆者団体)の結成にあたりまし
た。七〇年日本被爆者団体事務局長、八
一年から日本被爆者団体代表委員でし
た。早くから地域での被爆者生活調
査をすすめ、被爆者の要求を理論化
する基礎をつくりました。六六年に

は「原爆被害の特質と被爆者援護法
の要求」の策定、七三年の「被爆者
援護法のための要求骨子」では、被
害者の補償、いのち・くらし・こ
ころの保障、核兵器のない平和の保
護をいたいた。伊東壯さん(日本原水
爆被爆者団体協議会代表委員長・山梨大
学創学長名誉教授)が三月三日亡くな
られた。享年七十歳でした。三月六
日山梨大学、日本被爆協などの発起人
による「故伊東壯先生感謝の集い」が
甲府市で行われました。

伊東壯さんは中学三年のとき、爆心から
五キロ離れた東洋工業に学徒動員中
被爆しました。救援活動や肉親を捜す
など、市内を歩き数えきれないほどの
被爆者の死を目撃しました。

一橋大学在学中から、原水爆禁止
運動に参加、国立市の被爆者の会の
結成、一九五八年の東友会(東京の
被爆者団体)の結成にあたりまし
た。七〇年日本被爆者団体事務局長、八
一年から日本被爆者団体代表委員でし
た。早くから地域での被爆者生活調
査をすすめ、被爆者の要求を理論化
する基礎をつくりました。六六年に

は「原爆被害の特質と被爆者援護法
の要求」の策定、七三年の「被爆者
援護法のための要求骨子」では、被
害者の補償、いのち・くらし・こ
ころの保障、核兵器のない平和の保
護をいたいた。伊東壯さん(日本原水
爆被爆者団体協議会代表委員長・山梨大
学創学長名誉教授)が三月三日亡くな
られた。享年七十歳でした。三月六
日山梨大学、日本被爆協などの発起人
による「故伊東壯先生感謝の集い」が
甲府市で行われました。

伊東壯さんは中学三年のとき、爆心から
五キロ離れた東洋工業に学徒動員中
被爆しました。救援活動や肉親を捜す
など、市内を歩き数えきれないほどの
被爆者の死を目撃しました。

一橋大学在学中から、原水爆禁止
運動に参加、国立市の被爆者の会の
結成、一九五八年の東友会(東京の
被爆者団体)の結成にあたりまし
た。七〇年日本被爆者団体事務局長、八
一年から日本被爆者団体代表委員でし
た。早くから地域での被爆者生活調
査をすすめ、被爆者の要求を理論化
する基礎をつくりました。六六年に

は「原爆被害の特質と被爆者援護法
の要求」の策定、七三年の「被爆者
援護法のための要求骨子」では、被
害者の補償、いのち・くらし・こ
ころの保障、核兵器のない平和の保
護をいたいた。伊東壯さん(日本原水
爆被爆者団体協議会代表委員長・山梨大
学創学長名誉教授)が三月三日亡くな
られた。享年七十歳でした。三月六
日山梨大学、日本被爆協などの発起人
による「故伊東壯先生感謝の集い」が
甲府市で行われました。

伊東壯さんは中学三年のとき、爆心から
五キロ離れた東洋工業に学徒動員中
被爆しました。救援活動や肉親を捜す
など、市

マー・シャル諸島民のメッセージを

全身で受けとめたい

竹峰誠一郎

三・一ビキニデー集会の、アバッカ・アンジャイン・マディソン(マー・シャル諸島共和国ロングラップ環礁選出国会議員)さんのスピーチ(「福竜丸だより」前号既報)は、「二世紀へ、日本とマー・シャル諸島の草の根から、共に励まし合える相互交流の前進を予感させるものでした。私は、九八年度大学卒業論文で「核実験の社会文化的影響・マー・シャル諸島共和国をフィールドワークして」を執事しました。今春より大学院生として、同研究を続けています。私にとっては、アバッカさんのスピーチは以下の二点で特に印象的でした。

一点目は、新世代の島のリーダーが出てきた点です。彼女は

マー・シャル国会、ニチジエラ(一院制:定数三三)の最年少議員で

す。彼女は、ブランボー水爆実験の一九五四年三月一日当時を直接は

知りません。汚染がひどく故郷へ戻れない現状を「生活様式、文

化、マー・シャル人としてのアイデ

ンティティにとって決定的に重要な環境と資源から切り離されていました」と訴えました。

二つ目は、ロンゲラップ島民の核被害の実相と歩んできた歴史の重みを理解し、引き継ぎ发展させていくうとしている点です。核実験は、世界の『周辺』の先住民の地で行われ、国際舞台で隠されてしまいました。

ロングラップ島民もまさにそうでした。

しかし、彼女の父の故エト

ン・アンジャイン元国会議員らは、直接米国議会や国連・日本・太平洋島嶼地域などに非暴力的で国際的PRをしてきました。国際的PRの土

台には、汚染され奪われつづける『土地』『海洋』『労働の場』

『食生活』などの再構築の要求があ

りました。同時に国際的PRは「日本

のヒバクシャと同じよう、世界の平和と核の不拡散、廃絶の」力

になり「世界的な問題をとりくむう

えで役割をはたして」きました。現

在故郷では、米国に費用の負担を認めさせ、ロンゲラップ再定住計画が

進行中です。課題はあるものの、再開港一〇〇周年のイベントとして自衛艦を招待するので、その一部を焼津港に停泊させてほしい、という申請が三月一日に提出されました。漁港に自衛艦は相応しくないからなあ」私たち市長のこの決断に拍手をおくったのだった。

事件当時の焼津の小中学生は今や焼津の中堅を担う市民となり、地元の支持・賛同に名前を連ねてあります。その焼津はほとんどで、市長も保守系出身者がほとんどであります。その焼津へ毎年各地から多くの人々がやってきて(三・一、平和行進、九・一三)平和を訴える。市長も港に自衛艦は相応しくないからなあ」私たち市長のこの決断に拍手をおくったのだった。

焼津はむかしから保守色の強い町である。その焼津へ毎年各地から多くの人々がやってきて(三・一、平和行進、九・一三)平和を訴える。市長も港に自衛艦は相応しくないからなあ」私たち市長のこの決断に拍手をおくったのだった。

市長も各地の代表たちもお互いに高め合っているんだなあと強く感じた。

市から派遣された手話通訳者たち二〇〇〇年三・一ビキニデー集会に焼津市は手話通訳者(市職員)四名を派遣してくれ協力をいっそう強めた。手話通訳者の要請を受け私は

「三・一ビキニデー集会の記録」を届けた。四人は一人をコーディネーターとして資料を輪読しつ手話でどう表現するか研究し合った。

「未臨界核実験」「包括的核実験禁止条約」「新アジェンダ連合」など多くの専門用語はその意味を調べ合

い理解を深めながら其の表現を確認し合った。

集会当日、コーディネーターは

ずっと舞台の袖に立って三人にアドバイスを与え、三人は一五分毎に交代しつつ(A)手話通訳(B)袖で見

ていた世界大会実行委員のYさん

が「焼津市長の挨拶は年々よくなっている」とつぶやいた。私はうんうん頷きつつ、九年平和行進焼津市実行委が市長訪問したとき直接聞いた言葉を思い出していた。「清水港

の隣で長谷川焼津市長の挨拶を

聞いていた世界大会実行委員のYさん

が「焼津市長の挨拶は年々よくなっている」とつぶやいた。私はうんうん頷きつつ、九年平和行進焼津市実行委が市長訪問したとき直接聞いた言葉を思い出していた。「清水港

の隣で長谷川焼津市長の挨拶を

聞いていた世界大会実行委員のYさん